

ダンボールコンポスト をつくろう！



①準備

<容器>

- **ダンボール箱** みかん箱くらいの大きさで、二重構造のしっかりしたもの。
防水加工してあるものは、通気性がないので使えません。
- **底敷き用ダンボール** ダンボール箱の底の大きさに合わせてカットしたもの。
- **設置台** レンガや角材、ビールケースなど。
- **コンポストキャップ** 古いTシャツなどで作れます。

<基材>

- **ピートモスまたはココナッツピート** 15リットル
- **もみがらくん炭** 10リットル
→ 分量の割合はピートモスとくん炭が3：2です。箱の2／3の高さになるように、大きさに合わせて調節してください。



↑二重構造のダンボール

<あると便利なもの>

- **シャベル、ゴム手袋**
- **温度計** 毎日測ると、分解の様子が確認できます。



②設置

1. ダンボール箱を紙製のガムテープ（通気性確保のため）で組み立て、内側に底敷き用のダンボールを敷く。底を二重にすることで丈夫になります。
2. 基材のダマを崩すように、よく混ぜ合わせる。この際、箱を傷つけないよう注意してください。（箱が傷むと、そこから虫が侵入することがあります。）
3. 混ぜた時に土ぼこりが舞い上がらないように、水分を含ませる。
4. 雨が当たらず、できれば日当たりがいい所に、風通しがよくなるようレンガやビールケースなどの上に乘せて置く。

③生ごみを入れる

1. 生ごみを1日500gを目安に入れる。細かく刻むと分解が早く進みます。500gはあくまで目安で箱の中の基材の水分量の管理を大事にしてください。水分量の目安として、基材を握ると形になり、手で触れば崩れる程度です。
2. 箱の底や周りを傷つけないように気をつけながら、全体をしっかりと混ぜる。
※生ごみを入れない日もなるべく混ぜてください。
3. 温度計を中心に挿す。
4. 虫除けのため、コンポストキャップをかぶせる。



- ◎ 1～4を毎日繰り返してください。
- ◎ 開始すぐは分解が遅いですが、1週間ほどで微生物が活発になります。
- ◎ 毎日生ごみを投入しても、三ヶ月ほど使うことができます。
- ◎ 生ごみは微生物によって分解されるので、三ヶ月経過しても中身のかさはほとんど増えません。



<注意>

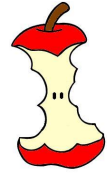
○分解するもの：調理くず、食べ残しなど生ごみ全般

◎分解が進むもの：ごはん、パン、麺類など（炭水化物）

お菓子、砂糖類、果実など（糖類）

肉、魚類（たんぱく質）

廃食油、揚げ物など（油）



△分解が遅いもの：たまねぎやたけのこの皮、とうもろこし

卵の殻、魚・肉の骨 → 小さくして投入してください

×分解しないもの：落ち葉や雑草、枝など

果実や梅干などの種

貝殻

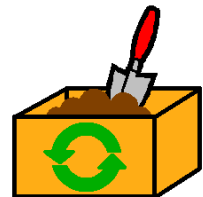


④熟成

◎ 使用開始から3ヶ月ほど経過すると、全体にダマができて黒っぽくなり分解が遅くなります。これが熟成に入る合図です。

◎ 熟成せずに堆肥として使うと、樹木が枯れる原因となります。愛情を込めて作った堆肥です。安心して使えるように最後の仕上げをしっかりとしましょう。

1. 生ごみの投入をやめて、混ぜるだけにする。
2. 基材が乾きすぎないように、適度に水を与える。



◎ 生ごみの形がなくなって、水分を与えても温度が上昇しなくなれば完成です。熟成開始から約1ヶ月ほどでできあがります。

⑤保存

◎すぐ使わずに保管する場合は、よく乾燥させてからビニール袋や土のうなどに入れます。小動物などが入らないよう、しっかり口を閉じてください。

こんなときどうする？ Q&A

× 生ごみの分解がうまくいかない

1. 温度 気温が10℃以下であったり、野菜を中心に入れていたりすると、微生物の動きが鈍くなります。野菜はより細かくし、廃食油や糖類、魚、肉などを投入してコンポスト内の温度を上げましょう。
2. 水分 水分量の目安は基材を握ると形になり、手で触れば崩れる程度です。水分が少ないなら米のとぎ汁などで水分補給し、多いなら風通しのよい所に移してしばらく生ごみの投入を止め、混ぜるだけにします。
3. 混ぜ方 混ぜることによって生ごみがコンポスト内に広がり、また微生物が分解に必要な酸素を送り込んでいます。しっかり混ぜましょう。
4. その他 生ごみが大きいと分解が遅いので、できるだけ小さくしましょう。また、硬いものや繊維が多いものも分解が遅いです。

× 虫がわいた

1. 箱の隙間に紙ガムテープを貼り、虫の侵入を防ぐ。
2. 定期的にコンポスト内の温度を上げる。卵のうちに駆除できます。
3. 木酢液をまく。虫が周りを飛んでいる場合に有効です。
4. ビニール袋に移して天気の良い日に天日干しする。

※長時間放置すると酸素不足で臭いが発生するので注意してください。

× 臭いがする

1. 魚・肉類を入れたり、一度にたくさん生ごみを入れたりすると、分解が進み臭いが出ることがあります。しばらく生ごみの投入を止めて混ぜるだけにしましょう。
2. 水分が多いと臭いが出ることがあるため、コンポストは風通しのよいところに設置し、生ごみの量を加減して水分量を調整しましょう。
3. 混ぜ方が足りないと、酸素不足で臭いが出ることがあります。毎日しっかり混ぜましょう。

◎ カビが発生した

白カビは順調な証です。そのまま問題ありません。



コンポストキャップ

- 【準備するもの】
- ①LサイズのTシャツ
(使い古しの下着でOK)
 - ②裁縫道具

虫よけキャップ をつくろう！

ハエやアブは、通気性のよいTシャツ
でつくったキャップでコンポストを覆
うことでほとんど予防できます。長年
の経験がみだしたこの「コンポスト
キャップ」はすぐれものです。

①Tシャツを裏返す

②カット

③広げる

④縫う

⑤余分な部分の
カット

⑥広げる

⑦山型に縫う

出来上がり！
コンポストにかぶせましょう。

虫よけだけでなく、冬場は保
温効果もありますよ。容器に
かぶせてブカブカな場合は裾
にゴムを1周させましょう！